

久留米自動車工科大学校 自己点検評価

(平成 30 年度)

教育理念・教育目標・育成人材像等

1 学校の教育目標

本校は、「人間味豊かな産業人の育成」という学校法人久留米工業大学が掲げる建学の精神に基づきながら、自動車整備士養成を目的として、専門の知識・技能の教授を基本に、専門職業教育を展開している。

自動車整備の基本である自動車の安全確保、環境保全等の役割を踏まえ、社会的意義の高い仕事であることに誇りを持った「プロフェッショナルな自動車整備士」の育成が、本校の教育方針である。

2 平成 30 年度に定めた重点的な取り組み

平成 30 年度では、以下について重点的に取り組み、教育運営を行った。

- 社会人経験者の入学を促進するため、国からの補助による、授業料負担を軽減する専門実践教育訓練講座となるべく申請を行い、10月に認可を受けた。
- 経営改善委員会を発足させ、収入の核である入学生確保のため、各種方策の検討を行った。
- 学生の心的ケアのために、臨床心理士によるスクールカウンセリングを開始した。
- 日産プリンス熊本と企業奨学金の提携を結んだ。
- 学生寮と食堂に WiFi 環境を整えた。
- 車体整備工学科に水性ペイント設備を導入した。
- 実習車両の更新（HV 車 10 台、EV 車 1 台）を行った。
- 旧車（マツダ RX - 7）のレストアを行った。（水性ペイントによるオールペイントを実施）
- WEB 広告費用や広告地域の選定など、専門業者と連携しながら広域広報を展開した。
- ツイッターによる双方向の情報交換等による広報も継続した。

3 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、	ほぼ適切…3、	やや不適切…2、	不適切…1
学校の教育理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は持っているか	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
学校の教育理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1

学科やコースの教育目標、育成人材像は、それぞれに対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1
--------------------------------------------------	---	---	---	---

① 課題

高等教育機関（大学・大学院）では必須条件である3つのポリシー（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）に習い、本校が掲げた3つのポリシーにもとづいた、教育目標・教育方針・目標とする人材像について、周知する必要がある。本校は国が奨励する職業実践専門課程の認可校であり、企業との連携を通して、高いレベルの職業実践教育が施されていることも周知する必要がある。

- *ディプロマポリシー：本校の卒業生が卒業までに身に付けるべき能力を記したもの。
- *カリキュラムポリシー：本校で身に付けるべき能力のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を、実践するのかを定める、基本的な方針。
- *アドミッションポリシー：本校の入学受入方針、本校の特色や教育理念に基づき、どのような学生を求めるかをまとめたもの。

（単語の意味）

- ディプロマ・・・高等教育機関から発行される卒業証明書や業績証明書
- アドミッション・・・学校や会に入ることを許すこと

② 今後の改善方針

次年度用募集要項には、本校が希望する人材像を記したアドミッションポリシーを記載し、入学後に使用する学生便覧においては、修業期間のなかで身に付けるべき能力や、目標とする人材像を明記したディプロマポリシーを記載する。

今後は3つのポリシーにもとづく、教育方針に沿った教育の質保証、職業実践専門課程認可校としての実践的教育が、教授できる教育環境を他校との差別化項目とし、ホームページを中心とした電子情報媒体等に、もれなく記載することにより利害関係者への周知を図る。

（2）学校運営

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、有効に機能しているか	④	3	2	1
人事等に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適正になされているか	4	③	2	1

システム化等により業務の効率化が図られているか	4	3	②	1
-------------------------	---	---	---	---

① 課題

本校の中期的運営方針は、6ヶ年（前期3ヶ年、後期3ヶ年）分の計画である実施計画により定めている。

実施計画に定めた目的・目標達成のために、当該年度の事業計画を作成し、その計画に沿った予算を作成して計画的に運営する。

運営組織や意思決定機能は、学校法人規程により明確化されている。

学校内の意思決定機能は、校長を頂点とした経営改善委員会や管理職会議等で審議し、合議的に決定し、有効かつ適正に機能している。

人事に関しては、法人全体で組織構成と規程化がなされ、適正に実施されている。

業務の効率化は、システム化が遅れており、事務部における業務の平準化がされていない点が、継続的な課題である。

② 今後の改善方策

事務部における業務内容の精査と担当者配分（業務量の配分）を再考し、担当業務の平準化を目指す。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間確保は明確化されているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか	④	3	2	1
関係分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備え	4	③	2	1

た教員を確保しているか				
関連分野における業界との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上の取組みがなされているか	④	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

教育理念に沿った教育課程編成は、カリキュラムポリシーを指標としたシラバスで、体系的に編成している。

実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムの工夫においては、教育課程編成委員会と協議検討しながら年次ごとに改善している。

学生による授業評価は、毎年実施しており、教員の共通理解のもと授業改革に活かしている。資格取得に関する指導体制としては、通常のカリキュラムの時間外において、資格取得対策授業を実施している。

先進的な知識・技術習得のための研修参加については、平成30年度は6件、11名の教員が参加している。

職員の能力開発研修としては、12月末に全事務職員を対象として実施した。

課題としては、今後の学校教育を担い、関係業界との関連性を備えた人材確保ができていない点である。

(単語の意味)

シラバス・・・教師が学生に示す講義・実習等の授業計画のこと

② 今後の改善方策

本校の教学面において、最も重要な項目である人材確保を、計画的・継続的に行う必要がある。年度途中からハローワークに求人を出したが、応募が少なかったため、現在はホームページで求人広告を掲載しているが、応募がない状態が続いている。

早急な人材確保が必要であるため、今後も継続的に人材募集に取り組んでいく。

(4) 学習成果

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生等の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1

卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1
---------------------------------------	---	---	---	---

① 課題

就職率向上という点では、各学科7年連続就職率100%を達成しており、職業人材を育成する専門学校の目的は達成されている。

資格取得率の点では、二級ガソリン自動車整備士資格において、平成26、27年度は90%を割りこんだが、この2年間は平均97%で推移しており、成果が上がっている。

しかし、一級小型自動車整備士資格取得率には大きな波があり、平成28年度の合格率が45%、平成29年度の合格率が17%と低調であり、当初の目標に達していない状況が続いている。

学校全体で資格取得率向上のための方策を検討する必要がある。

退学率においては、平成28年度が18名、平成29年度が13名、平成30年度が10名と低減されている。

卒業生等の社会的な活躍や評価把握に関しては、進路指導課長による広域企業訪問が時間的な制約（企業の採用担当者の来校が大幅に増加したため）のため大幅に縮小しており、詳細な把握が困難な状況である。

② 今後の改善対策

卒業後のキャリア形成の効果把握は、教育活動における改善や学生の目標に繋がる。

さらに、広報における重要なファクターのひとつであることから、従来の人的媒体に頼らない情報把握手段の構築を検討する。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
進路に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う体制はあるか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
高校・高等専修学校等とのキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	④	3	2	1

① 課題

進路及び学生相談に係る体制は、クラス担任や管理職教員の対応により、適切に実施している。

近年増加している女子学生への対応は、教員の対応に加えて、女性事務職員による相談窓口を開設し、二重対応としている。

学生への経済的支援では、入学時に離島奨学金や親・兄弟入学支援制度などを準備している。女子学生に関しては、後期授業料免除や一人ぐらし女子学生に対する住居サポート制度など、充実した経済支援制度を確立している。

課題としては、学生への健康管理体制が不十分であること、男子学生と女子学生の奨学制度の差が挙げられる。

② 今後の改善方策

女子学生に対する奨学金と男子学生に対する奨学金の差が大きいが、現状の収支状況を考慮すると早急な対応は難しい。

1年間の成績による奨学金の増額や、編入生に向けた入学準備金の創設など、様々な可能性を探り、実施にむけた検討を行う。

学生の健康管理体制は、保健士の常駐は困難であるが、心的問題の解決法策として、今年度から臨床心理士によるスクールカウンセリングを開始した。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④ 3 2 1
インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

平成30年度は、実習用車両の更新（HV車10台、EV車1台）を行うとともに、車体整備工学科では水性ペイント設備の導入を行った。

一級自動車工学科では、最新の振動分析器を導入するなど、教育設備に関しては、必要十分な環境が整っている。

しかし、各実習場の老朽化は進んでおり、大幅な改修が必要な建物も存在する。

インターンシップについては、一級自動車工学科を中心に十分な教育・支援体制が整っている。

防災に関しては、防災計画は策定しているが、全職員に対する周知が十分ではなく、防災訓練が実施出来ていない点が課題である。

② 今後の改善方法

3号館、5号館は老朽化しており、専門家の見解によると耐震補強をしても、その効果が少なく、継続使用に適さないという判断がでている。

将来に向けて建替え等を検討しなければならないが、本校の収支状況を考慮すると、建替えは極めて難しい。

本校の将来構想のなかで、実施可能な施設改修計画を策定する。

(7) 学生募集

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
学生募集活動は、適切に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
校納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

募集活動においては、少ない人材と予算のなかで、オープンキャンパス、高校訪問、説明会参加、各種 SNS での情報発信と出来る限りの施策は実行した。

しかし、その施策が入学増加に反映できていないことが継続的な課題である。

教育の成果を正確に伝えるための数値化、成果の見える化を検討していく必要がある。

校納金は、昨今の経済状況を踏まえ、若干の値上げに踏み切ったが、いまだ福岡県内の同種専門学校の校納金と比較しても、安価であることから妥当な金額である。

② 今後の改善方法

収入の根幹である学生数の確保のため、限られた予算内で効果を上げるために、広報戦略の方針転換を実施する。

従来の人的媒体を中心とした広報戦略から、電子情報媒体を中心とした広報戦略へシフトしていき、広域的・効率的な広報施策を展開する。

(8) 財務

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	②	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

言い尽くされているが、急速な若者の自動車離れ、大学志向の増加、就職率の大幅な伸びなど、自動車整備専門学校は、常に強い逆風にさらされている。

継続的な入学者の減少は、収支の悪化を招き、この10年間支出超過の状態が続いている。

② 今後の改善方策

全学的な意識改革、教育の質向上、学生の修学満足度の向上、これらの目標達成のため、教育内容の改善、カリキュラムの改善、目標とする人材育成への方法論の検討、新たな広報戦略の実施などを実践し、学校のブランド力を引き上げ、学生に選ばれる学校作りを目指す。

現状では、毎年100名以上の新入生確保は、困難であることから、現実に即した目標入学者数（90～95名）を達成するために、本校独自の教育方法の確立（他校との差別化）、ブランド力の強化をしていく。

(9) 法令遵守

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1			
法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

法令や設置基準に関しては、すべて遵守しており、適正な学校運営をしている。

個人情報管理も、外部の専門業者による年間監視システムを導入し、サーバー等の管理を一括して行っている。

学校法人全体で、情報セキュリティ方針を定めており、本校においても情報セキュリティ規程を作成している。

自己点検評価は毎年作成し、学校関係者評価とともにホームページにて公開している。

② 今後の改善方策

専門学校においても、近い将来に第三者評価が義務付けられる可能性があるため、今まで以上に厳しい視点での、自己点検評価の実施が必要である。